

神楽で地域づくり、人づくり 広島県・安芸高田市美土里町

広島県の北部に位置する安芸高田市美土里町（旧高田郡美土里町、平成16年の合併により、安芸高田市となった。）の山の中に、今回紹介する「神楽門前湯治村」があります。

ここには、天然温泉と宿泊施設、食堂やおみやげ屋などしつとかな建物が軒を連ねていますが、最大の特徴は郷土芸能である「神楽」がセツトになっていることです。三千人収容の《神楽ドーム》、神楽の公演や映像の上映が行われたり、歴史資料などが展示されている《かむくら座》などの施設が併設され、温泉と神楽をセツトで楽しむことができます。



地域の特性を活かしながら住民の参加を促し、産業振興と地域イメージを向上させたとして、平成13年度「活力のあるまちづくり総務大臣表彰」を受賞しています。

◎「神楽門前湯治村」とは

「神楽門前湯治村」は、昭和63年の竹下内閣時代に、いわゆる「ふるさと創生事業」の一環として美土里町がまちおこしで整備した複合交遊施設です。



統一感のあるしつとかな町並み

平成8年に第二セクターとして株式会社「神楽門前湯治村」が設立され、現在に至っています。

◎美土里町の「神楽」文化

美土里町の神楽は、島根県の出雲流神楽が石見神楽を経て、江戸期にこの地域に伝えられたと考えられています。また、その過程で、九州の八幡系の神楽や高千穂神楽・備中神楽、さらに中国山地一帯に古くから伝わる農民信仰などの影響を受けて現在の形態になったといわれています。

その特徴は、演劇性が強いという点で、極めて大衆的でのびのびとした民俗芸能に発展しました。現在では町内に13の神楽団が残り、共にその技を磨いています。



「かむくら座」の展示

◎「神楽」による若者の地域定着

美土里町に限らず、広島県北部の山間地域では神楽が盛んで、安芸高田市だけでも、22の神楽団が存在します。広島県内では「神楽ブーム」といえるほど人気があり、若者たちがこぞって地域の神楽団に入団し、伝統芸能の技を磨いています。

◎「神楽」による集客

「神楽門前湯治村」の《神楽ドーム》や《かむくら座》では、地元的神楽団の公演

が週末毎に行われ、観光客の集客に大きく寄与しています。

年に数回は「高校生の神楽甲子園」や「ひろしま神楽グランプリ」などのビッグイベントも開催される他、10名以上の団体で申し込むと、温泉と宿泊、貸切での神楽の観劇、神楽団との交流会をセツトにした宿泊プランを年間を通してほぼ毎日利用できるなど、地元の伝統芸能と観光産業をつまぐ融合させた運営が行われています。

◎川口健治先生との縁

上関町八島出身の川口健治先生も神楽が大変好きだったようで、美土里町を何度も訪れて、神楽の絵を数多く描かれています。「神楽門前湯治村」の中には、《川口健治絵画館》が常設され、川口先生が美土里町に寄贈された絵画のうち20数点が展示されています。また、《かむくら座》のおみやげコーナーには、川口先生の描かれた地元神楽団の絵はがきセツトや、うちわなども販売されています。



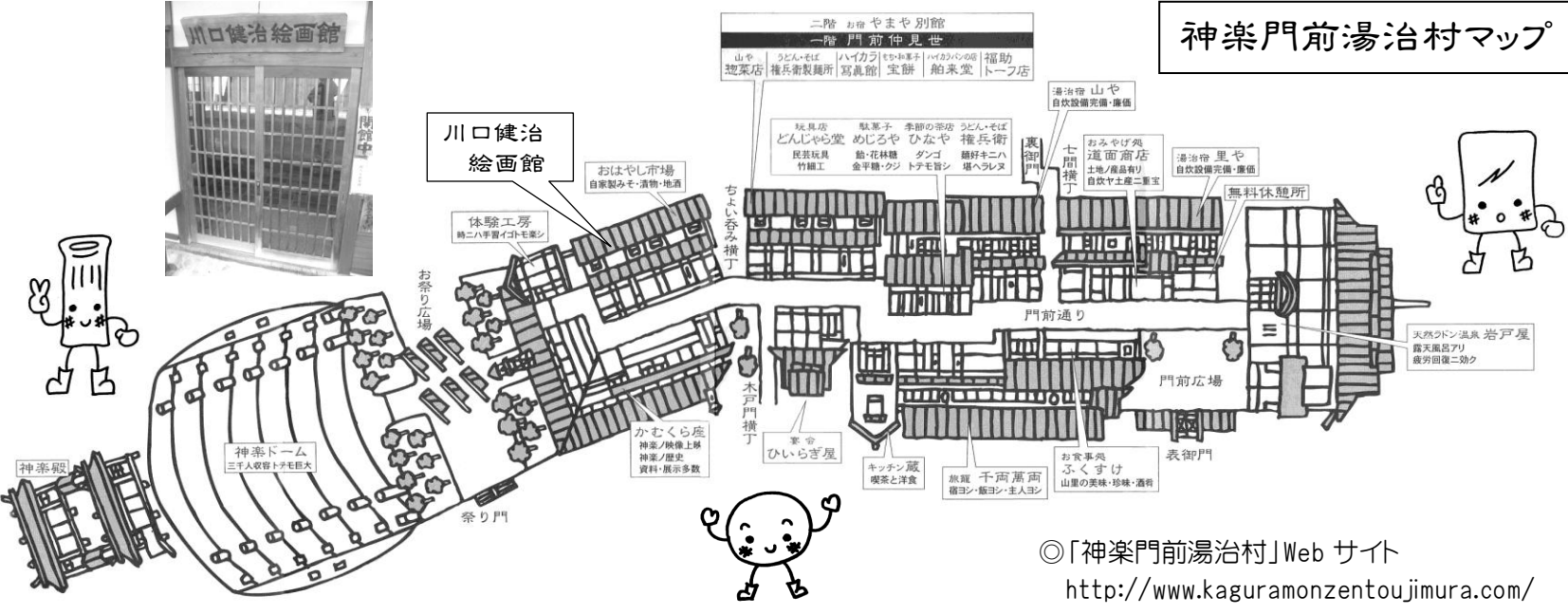
「川口健治絵画館」



「神楽ドーム」

《かむくら座》管理人の古川隆芳さんは、「川口先生の描かれた神楽の絵は、美土里町の各神楽団の特徴をとくもよく捉えていて、先生の神楽に対する熱い思いが伝わってきます。」と話されていました。

神楽門前湯治村マップ



◎「わいわいタイムス」2月号は2月3日（日）発行予定です。